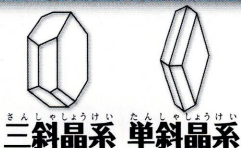


DATA FILE



名前	MOONSTONE (ムーンストーン) / 月長石
化学組成	(K,Na)AlSi ₃ O ₈
色	白色 (青白色の光を放つ)
光沢	ガラス光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	完全
断口	貝殻状、不平坦
硬度	6 ~ 6.5
比重	2.6 ~ 2.7

※データファイルでは、正長石と曹長石のデータを合わせたものを掲載しています。

カナダで産出した月長石。

素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

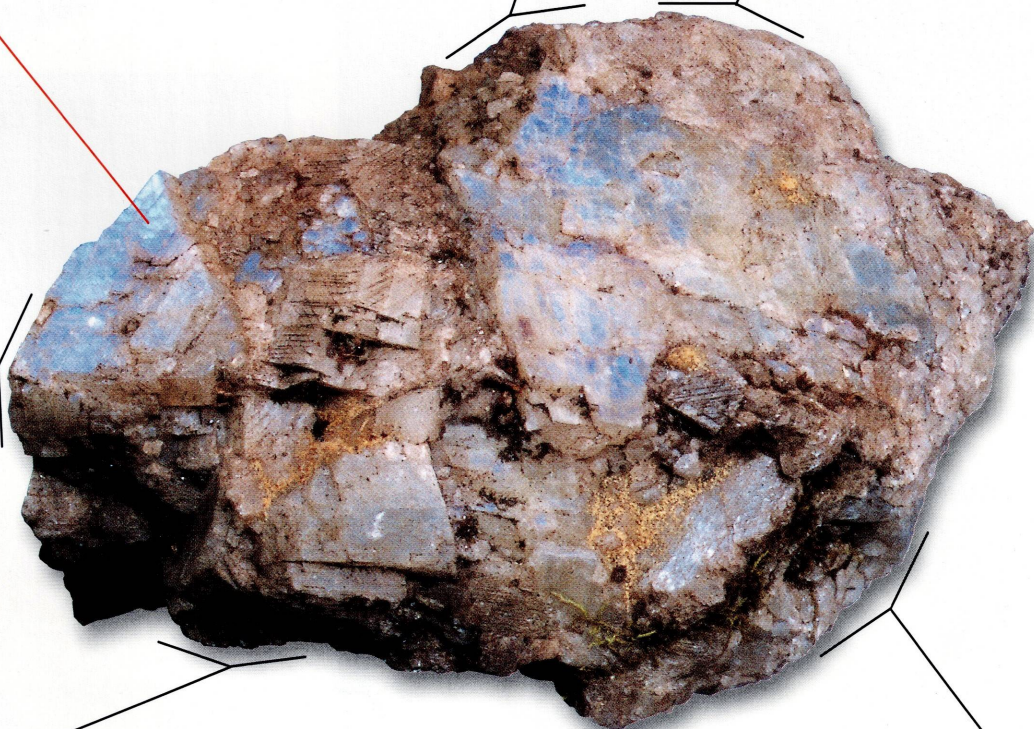
花崗岩pegmatiteや片麻岩中に生成するほか、別の場所から運ばれて再堆積した砂利の中から見つかることもある。

曹長石と正長石が交互に重なり合い、月の光に似た青白い光を放つものを月長石という。

月長石 MOONSTONE

劈開は完全で、ハンマーでたたくと貝殻状または不平坦な断口を示す。

ガラスのような光沢を持つ。



閃光を放つ2種の鉱物

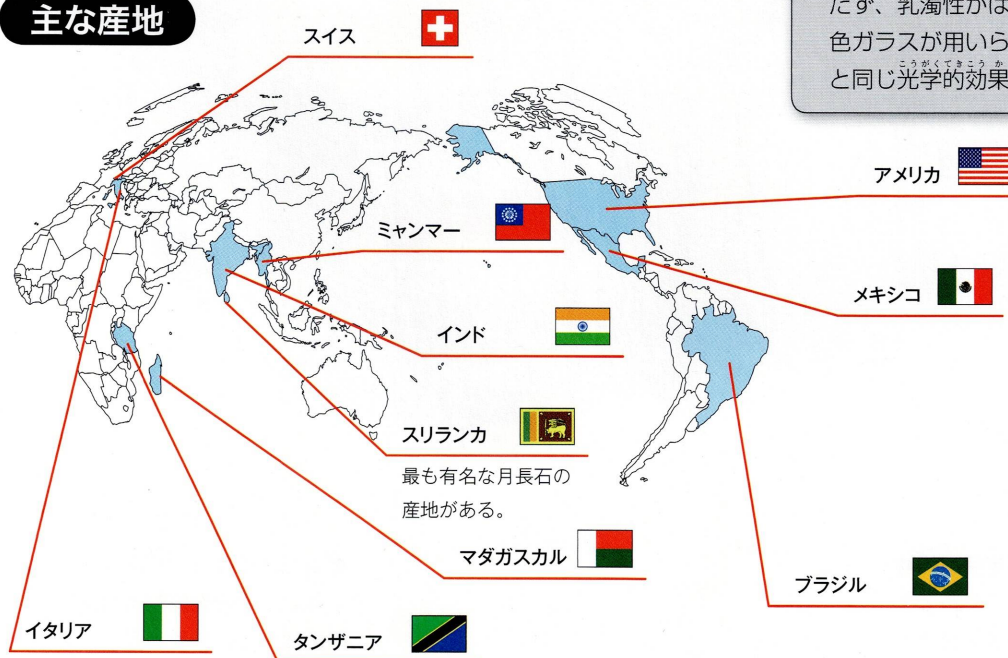
月長石とは、曹長石と正長石の薄い層が交互に重なり合い、月の光に似た青白い光を放つもののことで、結晶形成の際に、地下の深部でゆっくりと冷えて固まったため2つの鉱物が分離して層状になったと考えられる。2種の鉱物の薄層面に垂直に光が入る時、互いの層面で反射した光が干渉し合うことによって幻想的な光が発生。この現象は「閃光」と呼ばれ、宝石に加工される場合には閃光効果を生かすため、層になった面とカボション・カットの底面が平行になるようにカットिंगが施される。日本では産出しないが、月長石と同じ閃光を示すサニディンの斑晶が長野県や富山県などの流紋岩中から産出した。なお、曹長石と正長石が層になったものでも、独特の光を放たないものは「月長石」とはいわれず、それぞれの鉱物名で呼ばれる。

ケ 月長石



▲粒状の月長石。インド産。

主な産地



◀青白い閃光があらわれている月長石。

月長石の模造品

月長石のアクセサリーや装飾品のなかには、合成スピネルでつくられたものがある。合成スピネルによる模造品は、月長石の特徴であるゆらめく光の反射を持たず、乳濁性をはるかに大きいものが多い。また、着色ガラスが用いられることもあるが、こちらも月長石と同じ光学的効果は持っていない。

▼円形にカットされた月長石。

